

■アルゼンチン：国内4基目の原子力電源建設に向け、中国との協議が再開

エネルギー情報サイトは2019年3月23日、アルゼンチン国内で4基目となるアトーチャ原子力発電所3号機（80万kW）の建設計画について、中国核工業集团有限公司（CNNC）とエネルギー鉱業省（MINEM）の間で、2018年5月から棚上げになっていた協議が再開されたことを報じた。同機の建設は約60億ドル（約6,600億円）のプロジェクトで、首都ブエノスアイレスから100kmほど離れたリマサイト（アトーチャ1・2号機に隣接）が建設予定地となっている。電力系統運用者 Cammesa の発表によると、2019年2月時点でアルゼンチンの電源比率（発電電力量）は火力69%、水力24%、再エネ4%で、原子力は3%であった。アルゼンチン国内の原子力発電設備容量は合計175万kW（全体の5%）で、アトーチャ3号機が完成すれば255万kWとなる見通しである。